平成24年度

博士課程教育リーディングプログラム　プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	名古屋大学	機関番号	13901
1.　全体責任者（学長）	※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるものの場合は基幹大学）の学長名に下線を引いてください。 （ふりがな） 氏名・職名　はまぐち　みちなり 濵口　道成　（名古屋大学総長）		
2.　プログラム責任者	（ふりがな） 氏名・職名　やまもと　いちろう 山本　一良　（名古屋大学理事（教育・情報関係担当）・副総長）		
3.　プログラムコーディネーター	（ふりがな） 氏名・職名　すぎやま　なおし 杉山　直　（名古屋大学理学研究科　素粒子宇宙物理学専攻　教授）		
4.　申請類型	G ＜オールラウンド型＞		
5.　プログラム名称	PhDプロフェッショナル登龍門		
5.　英語名称	PhD Professional: Gateway to Success in Frontier Asia		
5.　副題	フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成		
6.　授与する博士学位分野・名称	文学、歴史学、教育学、教育、心理学、臨床心理学、法学、比較法学、現代法学、法務博士（専門職）、経済学、理学、医学、看護学、医療技術学、リハビリテーション療法学、工学、農学、国際開発学、学術、数理学、環境学、建築学、社会学、心理学、地理学、情報科学		
7.　主要分科	（①　　）（②　　）（③　　）※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 文学研究科、教育発達科学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学系研究科、工学研究科、生命農学研究科、国際開発研究科、多元数理科学研究科、国際言語文化研究科、環境学研究科、情報科学研究科に係る分科が対象		
8.　主要細目	（①　　）（②　　）（③　　）※ ｵﾝﾘｰﾜﾝ型は太枠に主要な細目を記入		
9.　専攻等名（主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。）	文学研究科人文学専攻、教育発達科学研究科全専攻、法学研究科全専攻、経済学研究科全専攻、理学研究科全専攻、医学系研究科全専攻、工学研究科全専攻、生命農学研究科全専攻、国際開発研究科全専攻、多元数理科学研究科多元数理科学専攻、国際言語文化研究科全専攻、環境学研究科全専攻、情報科学研究科全専攻		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請（構想による申請も含む）の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名（他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名）			

（機関名：名古屋大学　申請類型：オールラウンド型　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名称：PhDプロフェッショナル登龍門）

15. プログラム担当者一覧

氏名	ﾌﾘｶﾞﾅ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 （平成25年度における役割）
（プログラム責任者） 山本　一良	ﾔﾏﾓﾄ　ｲﾁﾛｳ		名古屋大学理事（教育・情報関係担当）・副総長（兼）工学研究科・教授	原子力学、核融合学、反応工学・工学博士	プログラム全体の進行に関わる統括、研究科間の総合調整
（プログラムコーディネーター） 杉山　直	ｽｷﾞﾔﾏ　ﾅｵｼ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・教授	宇宙物理・理学博士	プログラム全体の実施に関する統括 企画委員会委員長
安藤　隆穂	ｱﾝﾄﾞｳ　ﾀｶﾎ		経済学研究科・社会経済システム専攻・教授	経済学史、思想史・経済学博士	教育推進室員：経済学・社会思想史の観点によるグローバル・リテラシー教育の開発
飯島　澄男	ｲｲｼﾞﾏ　ｽﾐｵ		高等研究院・特別招聘教授	材料科学、電子顕微鏡学・理学博士	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
大西　昇	ｵｵﾆｼ　ﾉﾎﾞﾙ		情報科学研究科・メディア科学専攻・教授	視聴覚情報処理・工学博士	社会連携室室員：広報戦略を主に担当
大屋　雄裕	ｵｵﾔ　ﾀｹﾋﾛ		法学研究科・総合法政専攻・准教授	法哲学・学士（法学）	国際連携室室長：国際連携を統括すると共に、主にフロンティア・アジアを担当
木俣　元一	ｷﾏﾀ　ﾓﾄｶｽﾞ		文学研究科・人文学専攻・教授	西洋中世キリスト教美術史・doctrat de 3 e cycle、博士（文学）	教育推進室員：「日本文化論」「欧米文化論」「アジア文化論」に関わる教育課程の編成と授業の実施の統括および「欧米文化論」の授業担当
釘貫　亨	ｸｷﾞﾇｷ　ﾄｵﾙ		文学研究科・人文学専攻・教授	日本語学、日本語学説史・博士（文学）	教育推進室員：日本文化に対する教育のコーディネート担当
金銅　誠之	ｺﾝﾄﾞｳ　ｼｹﾞﾕｷ		多元数理科学研究科・多元数理科学専攻・教授	数学・理学博士	学生評価室員：学生の本プログラムにおける活動実績の評価担当
近藤　孝男	ｺﾝﾄﾞｳ　ﾀｶｵ		高等研究院・院長 理学研究科・生命理学専攻・教授	時間生物学・理学博士	プログラム実施に係る運営組織の統括
蔡　大鵬	ｻｲ　ﾀｲﾎｳ		高等研究院・特任准教授	資源・環境経済学、産業組織論、国際経済学・博士(経済学)	リクルート・キャリア支援室員：フロンティア・アジアを中心に留学生リクルートを担当
斎藤　進	ｻｲﾄｳ　ｽｽﾑ		高等研究院・および理学研究科・物質理学専攻・准教授	有機化学、特に分子触媒化学、有機合成化学・博士（工学）	教育推進室員：学際的な教育環境の構築、授業・コースワークの内容の助言と策定、およびカリキュラム・学年暦のアレンジ
杉浦　昌弘	ｽｷﾞｳﾗ　ﾏｻﾋﾛ		遺伝子実験施設・特別教授	分子生物学・理学博士	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
根本　二郎	ﾈﾓﾄ　ｼﾞﾛｳ		経済学研究科・社会経済システム専攻・教授	計量経済学・博士(経済学)	教育推進室長：プログラムのカリキュラム編成全体の統括 企画委員会委員
長谷川　好規	ﾊｾｶﾞﾜ　ﾖｼﾉﾘ		医学系研究科・分子総合医学専攻・教授	内科学、呼吸器病学・医学博士	リクルート・キャリア支援室長：リクルート、学生のキャリア支援全体の統括 企画委員会委員
早川　操	ﾊﾔｶﾜ　ﾐｻｵ		教育発達科学研究科・教育科学専攻・教授	教育学、教育哲学・Ph.D	学生評価室員：学生の活動実績指標の開発と評価
肘井　直樹	ﾋｼﾞｲ　ﾅｵｷ		生命農学研究科・生物圏資源学専攻・教授	森林保護学、森林生態学・農学博士	学生評価室長：本プログラムにおける学生評価全体の統括 企画委員会委員
福田　敏男	ﾌｸﾀﾞ　ﾄｼｵ		工学研究科マイクロ・ナノシステム工学専攻・教授	ロボット工学，ヒューマンインタフェース，工学博士	教育推進室員：ものづくりを中心とする総合的教育カリキュラムの開発
藤川　清史	ﾌｼﾞｶﾜ　ｷﾖｼ		国際開発研究科・国際開発専攻・教授	経済統計学、環境経済学・博士（経済学）	国際連携室員：国際的インターンシップ実施の支援
藤巻　朗	ﾌｼﾞﾏｷ　ｱｷﾗ		工学研究科・量子工学専攻・教授	電子工学・工学博士	社会連携室長：学外プログラム参加企業・官公庁等との調整 企画委員会委員
前野　みち子	ﾏｴﾉ　ﾐﾁｺ		国際言語文化研究科・日本言語文化専攻・教授	ヨーロッパ近世文化史、比較日本学・博士（学術）	教育推進室員：異文化理解力増進担当
益川　敏英	ﾏｽｶﾜ　ﾄｼﾋﾃﾞ		素粒子宇宙起源研究機構・機構長	素粒子物理学・理学博士	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
宮田　卓樹	ﾐﾔﾀ　ﾀｶｷ		医学系研究科・機能構築医学専攻・教授	細胞生物学，神経発生生物学・医学博士	教育推進室員：異分野理解力醸成に向けたカリキュラム開発担当
渡邊　誠一郎	ﾜﾀﾅﾍﾞ　ｾｲｲﾁﾛｳ		環境学研究科・地球環境科学専攻・教授	惑星科学・理学博士	教育推進室員：コースワークアレンジの担当
浅野　碩也	ｱｻﾉ　ｾｷﾔ		東海テレビ放送（株）・社長	放送メディア・法学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度

（機関名：名古屋大学　申請類型：オールラウンド型　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名称：PhDプロフェッショナル登龍門）

［採択時公表］

15. プログラム担当者一覧（続き）

氏名	ﾌﾘｶﾞﾅ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 （平成25年度における役割）
内山田　竹志	ｳﾁﾔﾏﾀﾞ　ﾀｹｼ		トヨタ自動車（株）・副社長	自動車工学・工学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
川口　文夫	ｶﾜｸﾞﾁ　ﾌﾐｵ		中部電力（株）・相談役	経営・学士（商学）	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
小出　宣昭	ｺｲﾃﾞ　ﾉﾌﾞｱｷ		中日新聞社・代表取締役社長	報道・政治学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
齋藤　明彦	ｻｲﾄｳ　ｱｷﾋｺ		（株）デンソー・相談役	自動車工学・工学博士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
柴田　昌治	ｼﾊﾞﾀ　ﾏｻﾊﾙ		日本ガイシ（株）・相談役	経営・経済産業政策、名誉博士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
土屋　嶢	ﾂﾁﾔ　ﾀｶｼ		（株）大垣共立銀行・取締役頭取	金融・法学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
筒井　宣政	ﾂﾂｲ　ﾉﾌﾞﾏｻ		（株）東海メディカルプロダクツ・代表取締役	経営・経済学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
橋本　孝之	ﾊｼﾓﾄ　ﾀｶﾕｷ		日本アイ・ビー・エム（株）・会長	経営・工学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
大村　秀章	ｵｵﾑﾗ　ﾋﾃﾞｱｷ		愛知県・知事	地方行政・法学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
河村　たかし	ｶﾜﾑﾗ　ﾀｶｼ		名古屋市・市長	地方行政・商学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
アルタントヤー　ジクジドスレン	ｱﾙﾀﾝﾄﾔｰ ｼﾞｸｼﾞﾄﾞｽﾚﾝ		元モンゴル国保健省事務次官	国際保健行政・MMA（保健行政修士）	国際連携室員：フロンティア・アジアとの連携、留学生リクルート担当
城所　卓雄	ｷﾄﾞｺﾛ　ﾀｸｵ		前駐モンゴル日本国特命全権大使	国際関係分野・文学士、名誉経済学博士、名誉外交学博士	国際連携室員：フロンティア・アジアとの連携、留学生リクルート担当
房村　精一	ﾌｻﾑﾗ　ｾｲｲﾁ		前名古屋高等裁判所長官	民事法・法学士	コースワーク、インターンシップ支援
松永　和夫	ﾏﾂﾅｶﾞ　ｶｽﾞｵ		経済産業省顧問	経済産業施策・法学士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度

（機関名：名古屋大学　申請類型：オールラウンド型　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名称：PhDプロフェッショナル登龍門）

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性
（広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。）

［概要］本プログラムでは、博士号を持ち、企業（起業を含む）・官公庁・マスコミ・政治・司法・国際機関・NPO など、社会のあらゆる分野においてリーダーとして実践的に活躍する職業人、すなわち**PhD プロフェッショナルを養成**する。まず、名古屋大学の持つ高い研究力に支えられた高度な専門性をコアとして獲得する。その上で、さまざまな分野・背景の人々と協働して創造的な成果を生み出すために必要な能力をコアに対するスポークと位置付け、**ディベート力・自己表現力、コミュニケーション能力、マネジメント能力、国際性と異文化・異分野理解力、自律的提案・解決能力などのスポークを本プログラムにより獲得**することを通じて、コアである優れた学識が社会の中で真に発揮され得るようにする。スポーク能力をも身に付け得る資質は、プログラム参加時の選考によって保証する。また本プログラムでは、日本の新たな成長戦略としてのものづくり再生の鍵となる東南・南・中央アジアの諸国を**フロンティア・アジア**と位置づけ、そこで活躍しうる人材を日本人・対象国からの留学生の双方において養成する。

組織：本プログラムは本学高等研究院を母体に構築し、総長の強力なリーダーシップのもと、部局横断的なマネジメントを実現する。また、本学を代表する研究者、高等研究院フェローであるノーベル賞・文化勲章の受章者ら学術のトップリーダーと、企業・官公庁・マスコミなどのトップリーダーがプログラム担当者として企画段階から参加している。

学位：本籍専攻が博士号を授与する一方、本プログラムは最優秀・優秀・優良の三段階評価に基づくディプロマを発行する。博士号の英語名称は、理念ある研究者であることを示すため PhD に統一する。

プログラム：確固たるスポーク能力を獲得するために、本学位プログラムでは次の施策を展開する。**(1)コースワーク**：高等研究院フェローや各界トップリーダーによるディスカッション・セッションとロールモデルとしての成功体験講演。他に、文化論、グローバル・リテラシー、コミュニケーションスキル、キャリア形成論などを開講。**(2)キャリア創成プロジェクト「登龍門」**：学生のプロジェクト提案に基づき、自律的な問題発見・課題想定・解決提案までのプロセスを、企業・官公庁・マスコミ等へのインターンシップなどにより実践。**(3)ヤングメンター**：各学生に対し、異なる分野に属する若手特任教員をメンターとして配置、異分野に通じるコミュニケーション能力を養成。**(4)社会人メンター**：企業・官公庁・NPO などから派遣されたメンターを各学生に配置し、多様な人材との共同実践やキャリア意識の強化養成。**(5)国際性の獲得**：フロンティア・アジアを中心に実施する初年次海外研修に加え、登龍門や世界の高等研究院が連携して実施する滞在型プログラムにより 1 ヶ月程度の在外研修を経験。本学ノースカロライナ州国際産学連携拠点（NU Tech）において同州立大学と連携、起業家精神を学ぶことを通じ、キャリアパスを明確化させるための合宿講義（アンビションキャンプ）を実施。

評価・質保証：ポイントシステムを導入し、メンターからの指導・コースワーク・「登龍門」への参加などプログラムの活動への参加と達成度を評価・数値化して把握する。一定のポイントを獲得することを、博士後期課程以降の本プログラムへの継続参加およびプログラム修了の要件とする。年度末には成果報告会を開催し、評価に応じて各学年 3 名の学生に「優秀学生表彰」を授与する。

［特色］①高度な専門性をコアとして担保しつつ、本プログラムによって、社会のあらゆる場面に柔軟に対応できるようになるスポーク能力を獲得すること、②学術、企業・官公庁・マスコミなどのトップリーダーが直接プログラムに参加すること、特に実社会の各セクターとの連携を強く意識し、社会人メンターの配置や「登龍門」によるインターンシップなどを行なうこと、③名古屋大学がこれまで築いて来た実績に基づいて、フロンティア・アジアと連携してリーダーとなる人材を育成すること。

［優位性］ノーベル賞をはじめとする高い学術研究の成果、Young Leaders Cultivation と名付けた若手特任教員の採用プログラム(高等研究院)、グローバル COE・大学院 GP・グローバル 30 といった教育研究・国際化に資する大型競争的経費の獲得とその運用、法整備支援・人材育成（政府高官を含む）などを中心としたフロンティア・アジアでの実績、本学の知的財産を紹介する目的でノースカロライナ州に展開する NU Tech、博士号取得者を含むキャリアパス支援のための B-Jin など、名古屋大学がこれまでに築き上げてきた実績に基づき、その統合と体系化を通じて新たに構築される学位プログラムであることから、優位性は明らかである。

学位プログラムの概念図

（優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。）

PhDプロフェッショナル登龍門

フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成

学術分野で活躍するプロフェッサーではなく、高度な**専門的知識・研究能力に支えられた多様性**を実現することで、**社会で実践的に活躍するプロフェッショナル**を養成します。 異分野・異文化への理解をもとにフロンティア・アジアとアと連携し、日本の新たな成長戦略を牽引することのできるリーダーを養成するため、**健全な批判精神**と**責任ある発言力・行動力の獲得**を目指します。

博士号（Phd）の取得

フロンティア・アジアの地平

中国・韓国など近隣アジアだけでなく、モンゴル、ウズベキスタンなどの中央アジア、中東、インドなどの南アジア、ベトナム・カンボジアなどの東南アジアを含む発展著しい領域を**「フロンティア・アジア」**と呼び、我が国と当該領域の連携強化と発展に貢献できる**グローバルリーダーの養成**を目指します。

ポイントシステム

プログラムへの参加実績・評価を**ポイントシステム**に反映し、**優秀学生表彰・プログラム修了評価**に結び付けます。 博士後期課程への進学に際しては、専門能力だけでなく 獲得ポイント数・語学力を評価します。

5年次（D3）

キャリア創成プロジェクト「登龍門」

学生からの**プロジェクト提案**に基づき、学内外の研究組織への「留学」、企業・国際機関へのインターンシップなどを 通じたキャリア形成を支援します。

4年次（D2）

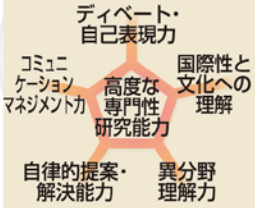
ノースカロライナ・アンビションキャンプ

米国ノースカロライナ州の名古屋大学NuTechにおいて、同州立大学と連携した4週間の集中講義を通じ、起業家精神や新産業創造を学ぶことで将来のキャリアパスに対するイメージを強化します。

社会人メンター制度

実際に**企業などで活躍する中堅人材を メンターとして活用**し、経験を通じてグローバル経済の実態を学ぶとともに、リーダーとしてのロールモデルを参照させることで、社会で求められている能力への自覚を強化します。

コア+スポーク能力の修得



従来から重視してきた高度な専門知識・ 研究能力の獲得を**コア**と位置付け、本籍部局で教育する一方、異分野・異文化との連携に求められる理解力・展開力・語学力・コミュニケーション力など本プログラムで育成する**スポーク能力**と総合した人材養成を実現します。

修士号の取得

3年次（D1）

コースワーク

スポーク能力育成のため、各界のトップリーダーとのディスカッション、日本・欧米・アジア文化の学修と体験、グローバル社会の法と経済を学ぶ講義、キャリアパス開発やコミュニケーション・スキルの修得などを進めます。

2年次（M2）

ヤングメンター制度

名古屋大学独自の**若手特任教員をメンターとして配置**し、異なる専門領域に関するレビュー作業を通じて異分野への理解力・展開力を養成します。複数のメンターに順次指導を受け、多面的な視点を養います。

初年次海外研修

アジア諸国を中心に、1週間程度の研修を通じてフロンティア・アジアの現状と異文化コミュニケーションの課題を体感します。

1年次（M1）

文化的実践の重視

特に日本文化については、講義等による学修にとどまらず、指導的人材による協力得て華道・茶道・陶芸などの実践的経験を行ない、総合的・体験的に理解することを目指します。

入学

採用学生の質保証

日本人学生は通常の前期課程合格者を対象に募集し、**専門能力の水準を維持**します。留学生はフロンティア・アジアとの連携を通じた推薦を重視し、高い能力を持つ学生を獲得します。

機　　関　　名	名古屋大学
プログラム名称	PhD プロフェッショナル登龍門

［採択理由］

「フロンティア・アジア」に焦点を当てており、プログラムに具体性がある。高度な専門性（コア）と、専門性を活用するリーダーシップ能力（スポーク）を教育し、俯瞰力と知識を体系的に身に付けるように工夫されており、全体のコンセプトはオールラウンド型リーダー育成と合致している。

各社会人メンターに対する 3 名の学生の割り当て、学生が定期的に話題を提供してディスカッションする「ハッピーアワー」の設置など、チームとしての力を発揮させるため学生の日常の活動をきめ細かく支援する体制が考えられている。

既存のシステムを活用した海外研修で異文化理解等を図り、産学連携についても具体的に検討されている。

国際的に高い研究実績と大学院教育改革の実績を背景にした新たなグローバルリーダー養成プログラムであり、内容的に充分に教育効果が期待できる。